



平成29年度
環境省 総合職事務系

内定者の声



はじめに

皆さんこんにちは！

今年度の環境省総合職事務系の内定者です。

まずは、本書を手にとってください、本当にありがとうございます！！

いつ、どんな場所で、どんな人に読んでいただいているのだろう…と楽しい想像をしながらこの文章を書いています。

本書は、環境省内定までの道のりを皆さんに知っていただくために、環境省内定者という「人」にスポットライトをあて、内定者6名が協力して書いています。

実は・・・私たち、内定をいただいて1ヵ月経っていない状態で本書を書いているんです笑。ですから、皆さんにかなり近い立場ですし、「こういった情報が欲しかったのか」「何が不安だったか」ということを思い出しながら、書いています。まだ大半が学生のため、見苦しい文章も多いかもしれませんが、できるだけ率直な意見や経験を書いて、「リアル」な情報をお届けできるようにしているつもりです。

本当は環境行政の魅力についてもっと語りたいたいことありますが、私たちはまだ働いていないのでやめておきます笑。環境行政の魅力や中身について詳しく知りたい方は、どんどん説明会に足を運んでいただければと思います。

来年度から環境省で働くことになる同期と一緒に話をしていると、本当にいろいろなバックグラウンドを持った人がいます。当然就職活動のありかたも六者六様で、それぞれの戦いがありました。皆さんもこれからその戦いに身を投じることになります。

就職活動を一般化するのはなかなか困難ですが、まずは私たちのことを知ってもらい経験を共有することで少しでも皆さんのお力になればと思います。

それでは、多様性に満ち溢れた環境省内定者の世界へ・・・。

H29年度環境省内定者一同

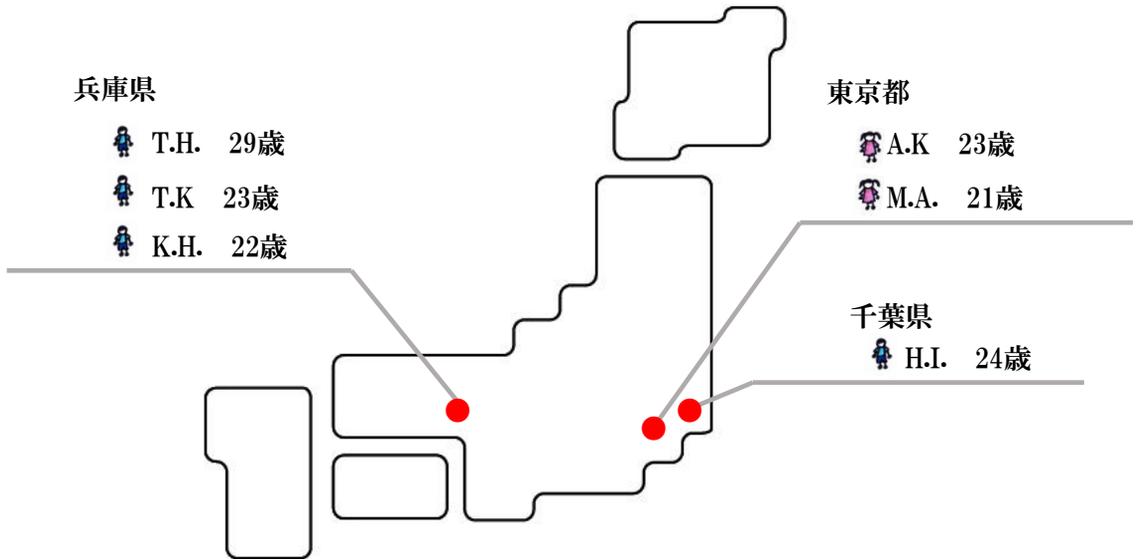
目次

内定者基本データ	P. 3
国家公務員試験アドバイス	P. 6
官庁訪問アドバイス 官庁訪問の基礎知識 官庁訪問体験記	P.20
内定者インタビュー	P.38



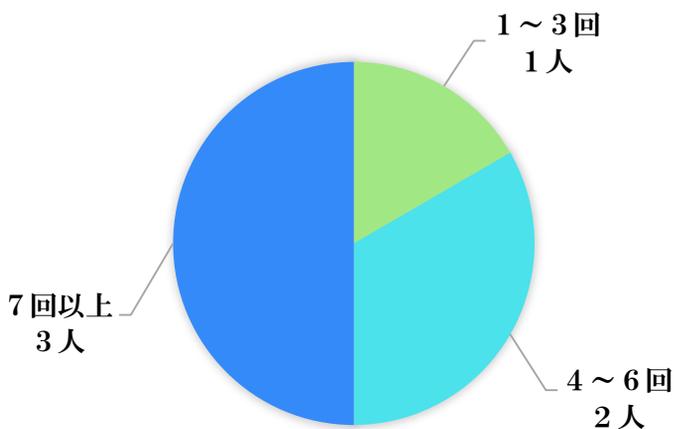
内定者基本データ

* 出身地・性別・年齢



神戸出身者が3人もいます！
年齢がバラバラで、それぞれにいろいろなバックグラウンドがあることも特徴のひとつと言えるかもしれません。

* 環境省の説明会参加回数



地方の大学に通っている人は、たくさん説明会に参加するのは難しいですね…。

公務員試験が終わるまでは勉強に追われてなかなか余裕がなくて参加できなくても、2次試験が終わった後でも説明会はあります！



M.A.

出身校 : 早稲田大学政治経済学部 国際政治経済学科
試験区分 : 大卒経済
座右の銘 : 去華就実

H.I.

出身校 : 明治大学文学部
→東北大学大学院公共政策大学院
試験区分 : 大卒経済
座右の銘 : 大一大万大吉
(意味はOne for all ,all for one.)



A.K.

出身校 : 早稲田大学法学部
→早稲田大学大学院法学研究科
試験区分 : 大卒政治・国際
座右の銘 : 一期一会



T.K.

出身校 : 早稲田大学法学部
試験区分 : 大卒法律
座右の銘 : 為せば成る、為さねば成らぬ何事も



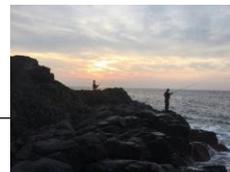
T.H.

出身校 : 京都大学法学部
→東京大学法科大学院
試験区分 : 院卒行政
座右の銘 : 強くなければ生きていけない。でも、優しくな
ければ生きる甲斐がない。
(小説家のチャンドラーの遺した言葉を、少し変えたもの
です。強く、優しい行政官になりたいと思います。)



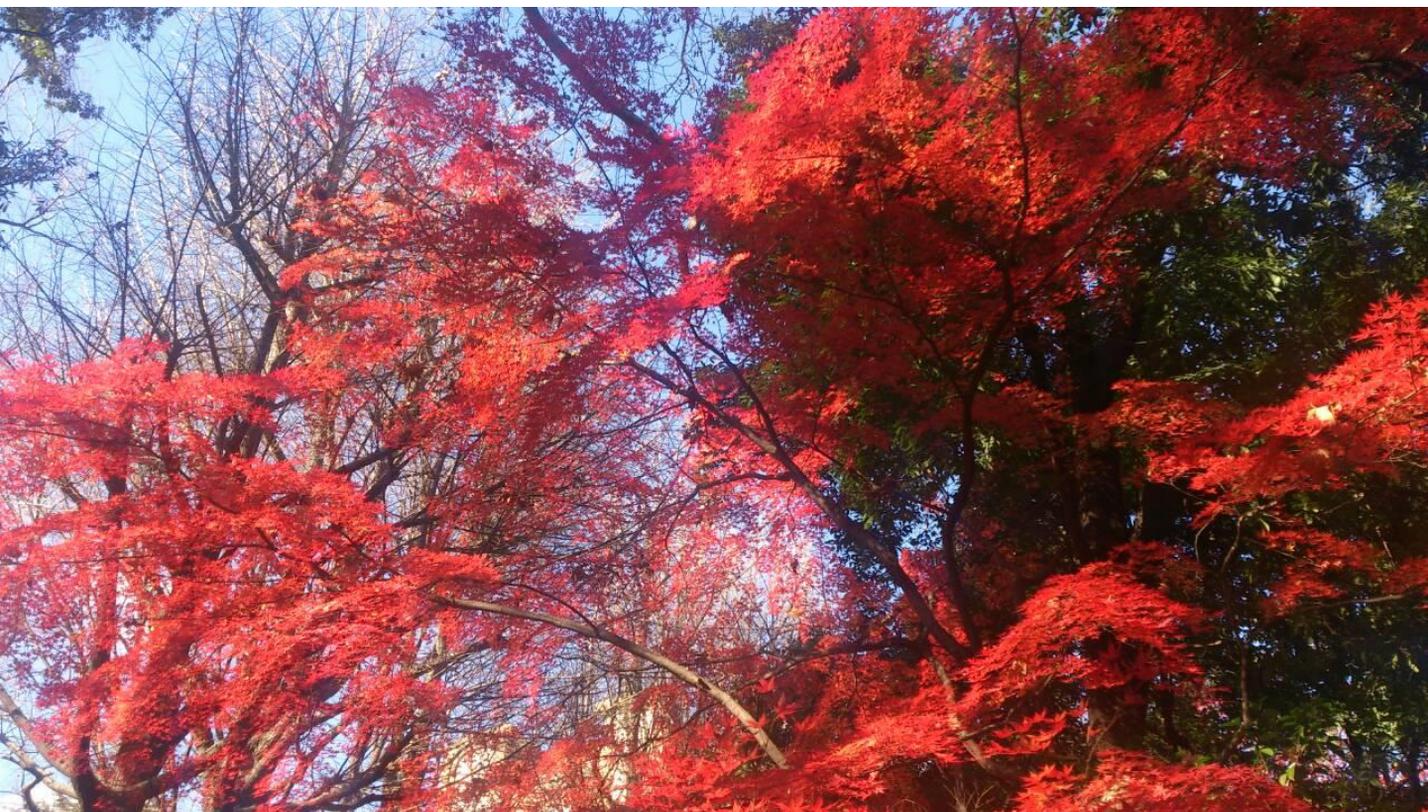
K.H.

出身校 : 九州大学法学部
試験区分 : 大卒法律区分
座右の銘 : 一期一会
劣等感もほら最大の武器になるんだろう



国家公務員試験 アドバイス

国家公務員を目指すのであれば、誰もが突破しなければならない試験。
なにを考えて国家公務員を目指すようになったのか、実際にどのような勉強をしたかなど、
ひとりひとりがたっぷり書きました！
勉強の息抜きとして、国家公務員を目指そうか迷っているときの参考として、お役立てください。





M.A. の場合

* 大学時代打ち込んだこと

入学時から、サークルで環境活動に打ち込んできました。文化祭でのゴミ分別、子供相手の環境教育、商品開発や国際会議への参加など、時間のかけ方は様々ですが、色々な活動を今も続けています。

今振り返って、就職先選びに最も大きく影響したと思うのは、大学2年のときの**生物多様性条約の締約国会議（COP）への参加**です。ユース（青年）グループとして参加して、交渉の場面をたくさん見ました。条約を作るための交渉のプロセスや交渉官の責任の重さなどを目の当たりして、国家公務員の仕事の一部を垣間見ることができました。

印象的な場面など、語りだすといくらでも語れてしまうので、気になる方は連絡ください（笑）

他にも塾講師のアルバイト戦士だったり、学科で大規模BBQを企画したり、甲子園でホルンを吹いたり、色々なことをやっています。

* 併願状況

公務員：なし

民間：消費財メーカー（主に食品、飲料）、化学メーカーなどを見ていましたが、結局本エントリーまではしませんでした。

* 志望理由

○仕事でも環境問題解決に貢献したい

サークルを通して、環境問題の深刻さとそれに対する貢献の重要性、そしてなにより面白さを身をもって感じていたことと、OBOGで環境関係の仕事についている人も多く身近だったので、自分も将来は環境問題解決に貢献する仕事がしたいと、大学1,2年の頃から漠然と思っていました。

○環境省に入るとは想像もしていなかった

上記のように言っている割に、環境省という選択肢は、見もしないで捨てていました（笑）というのも、国家公務員試験は宝じり的な確率でしか受からないから無理だと思っていたからです（今思うと、調べもせずそう思い込んでいて恐ろしい...）。

でも、大学3年の秋のワンデーインターンが転機となりました。

○志望理由

NGO、企業の環境担当など、環境に関わる仕事を様々考えました。サークルの活動のような草の根活動は楽しいけれど、もっと根本的に制度から変えていくことはできないだろうかというも悩んでいたことと、COP12で、国が行う取り決めの影響の大きさを強く感じたことから、結局は国家公務員という立場で環境に関わりたいと考えました。

大学1年4月

大学入学。環境サークルに入る。

大学1年9月

生物多様性の活動をする団体に出会う。後にこの団体の活動でCOPに行くことに。

大学2年秋

COPの準備をしながら塾で受験生を担当していて、大変ながらも楽しい日々を過ごす。

大学2年10月

COPに参加。大変に刺激を受ける。

大学3年
4,5月

主にベンチャーの就活が始まり、自分自身も就活を少しずつスタート。

大学3年夏

担当していた生徒が大切すぎて、サマーインターンに行くのを諦める。

大学3年9月

環境省のワンデーインターンで、こんなに自分の考えにぴったりの仕事があったのかと思い、COPぶりに国家公務員に憧れる。

大学3年10月

2週間のアメリカ旅行。現実から離れた場で、浪人覚悟になる国家公務員試験という道を選んでいいのか考える。そして選ぶことに決める。

大学3年2月

それまで授業が忙しかったこともあり、やっと公務員試験の勉強に本腰を入れる。

大学4年4月

最初は民間就活も並行するが、ESの山を見て、勉強との両立は無理と判断し公務員試験一本に。

* 1次試験対策

区分：大卒経済

席次：1～50 / 230人

予備校 あり・なし・**一部利用**

専門

- ◎マクロ/ミクロ経済学/経済政策
参考書1冊と、過去問を繰り返し解きました。
- ◎国際経済学
外務専門職向けの予備校の講義を取って、概要をつかんだ後、過去問を解きました。
- ◎財政学/経営学
参考書を繰り返し読んでいました。
- ◎統計・計量経済学
例題がたくさん載った良い参考書を1冊やって理解しました。
- ◎経済事情
時事の本を読んだくらいです。

教養

- ◎文章理解
時間がなくてほぼ対策しませんでした。
- ◎判断推理
参考書を2,3周はやりましたし、判断推理のような問題をよく出す学校の対策を塾で教えていたので苦手ではなかったのですが、国家総合職の問題が難しすぎて、実際ほぼ歯が立ちませんでした。
- ◎数的処理
3年間上位クラスの学校を目指す中学生に数学を教えていたので、頭の使い方に慣れていて、比較的得意だったので、ほとんど何もしてません。

* 1次試験対策

専門記述

1次対策の際に、場当たり的ではなく、根本から理解するように心がけていたため、1次が終わってから、それを書き起こす練習を過去問を使ってやりました。
公共政策だけは初めてやるものだったので、予備校の講義を一応受けました。

政策論文

予備校の講義を受けたあと、過去問を使って7年分くらい練習しました。
全部書いていると時間がかかって大変なので、1年分につき40分くらいで、少し詳しくに文章の構成のみ書いていました。

勉強にかけた時間 約600時間

1次：約530時間（専門：教養＝5：1くらい）

2次：約170時間

人物試験

自分が一体何をしてきたのか思い出すため、**大学からの自分史を、昔の手帳などを掘り起こしながら簡単に作りました。**その後、自分で考えたり友達に聞いたりして、自分の特性と思われるもの(例えば「行動力がある」のような)と、その根拠となりそうな経験を結びつける作業をしました。
それを元に、**面接カード**(学生時代頑張ったことや志望理由などを聞かれるもの)を記入して面接に臨みました。
事前の噂では、面接カードに書いてあることを少し深くまで聞かれるくらいで何も怖くないと聞いていたのですが、実際は、「生物多様性保全において、ある程度までは自然を破壊しても仕方ないという妥協の根拠はどこにあるんですか？」という質問など、思いもよらない質問が来ることもありました。
かっこいいことは言えませんでした。素直に思っていることを返答すれば問題ないと思います。



H.I. の場合

* 大学時代打ち込んだこと

・大学時代

大学時代はいわゆる意識高い系(笑)でほんといろいろな活動をしてました。

国会議員インターンで議員の代わりに会議に出たり、某国の大使の歓迎会に出席したり。いろんなボランティア活動を行ったり。とりあえず**自分が勉強してわからないことは現場に出ている体験してみよう!**という精神でした。また、ドラッグストアや鰻屋等、バイトも沢山行いました。

・大学院時代

大学院時代は、チーム研究で他の院生や実務家や研究者と一緒に激しい議論(?)を交わしながら各省にヒアリングを行い、某省に政策提言をしました。また、NPOに所属して子どもの勉強を教えたりもしていました。

こう見ると自分でも意識高い!!と思うのですが、**やはりいろんなフィールドで経験できたことが今の自分に繋がっている**と思うと、やってきて良かったな~と思います。

* 併願状況

公務員：なし

民間：金融業界を中心に、コンサルや不動産も少し見ていました。結果的に金融機関2社から内定をいただきました。

* 志望理由

○H.I.の就職活動戦線~学部編~

大学時代、何となく友達の誘いで国会議員インターンに参加したのを理由に、漠然と「公共性の高い仕事がないな~」と思っていました。

途中ボランティアなどにもたくさん参加し、子ども(次世代)のために何かしたいと、国家公務員への志望を固めていきました。身の程知らずということもあり、国家総合職試験しか受けず、試験は最終合格したものの、他省の官庁訪問で撃沈しました。

○H.I.の就職活動戦線~大学院編~

その後、公共政策大学院に進学し、2度目の官庁訪問もあえなく撃沈。自分は公務員に向いていないのだと思い、翌年は民間就活だけに挑み、志望していた会社に内定をいただくことができました。

○H.I.の就職活動戦線~最後の官庁訪問編~

内定をいただき一段落した後も、まだ国で働きたいという思いは消えませんでした。研究で中国に訪れた際に大気汚染の危険を感じたことや、公共政策大学院での環境政策の授業を受け環境金融に興味を持ったこと等、「子ども(次世代)のため」に何か行うためには、環境問題の解決が重要であると考え、生涯をかけて環境政策をやってみたい!!と思ったことから、環境省を志望しました。

大学1年2月

友人の誘いで国会議員インターンに参加。公務の面白さに気づく。

大学2年5月

大学の公務員試験対策の団体に所属。

大学2年8月

公務員試験対策の団体の夏合宿で副幹事長に就任。以後、公務員を志す刺激的な仲間達や、その後ずっと面倒を見ていただくことになる先生に出会い、国家総合職の受験を考え始める。

大学2年冬
~大学3年春

この頃から福祉系のボランティアに多数参加し始める。

大学3年4月

国家総合職の単願をこの時点で決意。数的処理や教養から勉強し始める。

大学4年夏

勉強の努力が実り、最終合格!ところが、官庁訪問に僅差で敗れ院進学を決意。

大学院1年

東北大の院に進学。チーム研究に励みながら、官庁訪問に挑むも自分が成長していないことに気づき当時第1志望だった省庁を辞退。民間就活を考え始める。このころから授業などで環境行政の面白さに気づいていく。

大学院2年

修士論文は環境金融を選択。民間就活が軌道に乗り、行きたいところの内々定はとれる。ただ、まだ国に行きたいという気持ちは残っていたので、省庁説明会に参加し、官庁訪問を決意。

* 1次試験対策

区分：大卒経済

席次：150～200 / 259人

予備校 あり・なし・**一部利用**

専門

◎経済理論(マクロ/ミクロ経済学)

大学の公務員対策講座を受け、試験前年の年末までに過去問等を何度も解き、基礎固めを行いました。年明けから応用問題を多く解いていました。

◎経営学/財政学/経済政策

講義を受けた後、参考書を2周ほど勉強しました。

◎統計・計量経済学

講義の際に配られていたプリントで勉強しました。

◎国際経済学

あまり勉強していませんが、講義を受けて少しだけ勉強していました。

◎経済事情

時事の本や内閣府の出している「世界経済の潮流」を読んでいました。

教養

◎文章理解

現代文と英語を1日1文ずつ読んでいました。

◎数的処理/判断推理/資料解釈

あまり得意でなかったのですが、前年の春くらいから入門書を買って問題に慣れた後、別の参考書を3周程度はやりました。

◎社会科学/人文科学/自然科学

社会科学は専門をやっているから自然と対策になるはずですが。

人文科学は、高校時の教科書をひっぱりだしてきて復習。

自然科学は生物以外捨てました。

* 2次試験対策

専門記述

年明けから1次試験対策と並行して、専門記述対策を行いました。普段から1つの論点について自分がしっかり説明できるようにノートにまとめたり、記憶が定着するまで頭の中で整理していました。また、対策講座の先生に何度も添削していただきました。

政策論文

講義を受けつつ、過去問を使って記述の練習しました。新しい年度のものとは時間を測ってみっちり記述を行い、昔のものは自分だったらどう書くかの要点をまとめていました。あとは、新聞の記事について友人と議論する時間なども設けていました。

勉強にかけた時間 合計約1100時間

1次：約800時間（専門：教養＝3：2くらい） 2次：約300時間

人物試験

○他人を巻き込んだ対策を

人物試験対策の私の当時の方針としては、「**徹底的に人に見てもらおう**」ということでした。やはり面接カードを書くにしても面接練習をするにしても、1人でやっているとどうしても主観的になってしまうので、友人や公務員講座の先生に徹底的に見てもらいました。人物試験の直前の1週間は夜遅くまで何度も友人と面接練習を繰り返しました。

当然、友人とやると相手の面接練習等もしなければならないのですが、**自分が面接官の立場で他人の面接を見て、結果的に自分の面接を振り返ることができる**ので個人的におすすめです。

あとは友人間で今朝見た新聞記事を議論する時間をつくったりすると、「最近気になった記事」の質問に対する対策になるかもしれません。

面接は慣れです。何回も練習を繰り返して、当日できるだけ緊張しないようにしましょう。



A.K. の場合

* 大学時代打ち込んだこと

留学してからは**国際的なことに関わりたくて、色々挑戦しました**。大学の国際交流センターのサポーターや、国際的なドキュメンタリー映像祭を運営するNGOでのインターン。また、英語を使う機会を絶やしたくなかったのでLanguage partnerと協力したり、英語クラスの自主ゼミで毎週ディスカッションをしたりしていました。今は訪日誘致を扱う企業で、ベトナム向けの情報発信や翻訳作業などをやっています。

1番力を入れたのはやはりゼミ活動です。国際問題を1つ選び、グループでその課題解決の政策を提言するのが主な活動で、外交官の方に発表し評価を頂いたり、他大学と交流したり、韓国大使館に訪問して話をうかがったりしました。

また、**知らない土地に足を運ぶのが好き**で、海外へは留学中を含めて10か国以上行きました。

* 併願状況

公務員：東京都 I 類A(2次試験不合格)、
東京都 I 類B(最終合格)

民間：なし

* 志望理由

○就活の軸

留学中に日本を客観的に見つめ直したことで、日本ってすごく魅力的な文化や技術をたくさん持っている国なんだ！ということに改めて感動しました。こうした魅力を大事に育て、国内外に広めたいと感じたことが、最後まで自分の就職活動の軸となりました。

○公務員志望のきっかけ

ゼミで政策提言をした経験から、公益のため人の役に立つためというモチベーションで仕事がしたいと考え、また官僚の方から伺った言葉に憧れて、公務員を志望しました。ただ、国家総合職はあまりにもハードルが高く、地方でより身近に現場を感じながら仕事をしたいという思いもあったため、初めは東京都庁が第1志望でした。(この思いは官庁訪問を通して、国家の方がより幅広い現場と関われる！という認識に変わりました。)

○環境に対する思い

小学校の図書館で地球温暖化に関する本を読んだ時、子供ながら環境保護の逼迫性をひしひしと感じ使命感に燃えたのを覚えています。もったいない精神が旺盛な子供でした笑。

そんな自分にとって、イギリスでゴミ収集の分別が全くなされていないのは衝撃的でした。日本ではゴミの分別やリサイクルといった意識がきちんと醸成されており、これは国際社会に誇れる点なのではないかと感じたことが、環境行政に対する思いに繋がりました。

大学2年
夏休み

イギリスのオックスフォードに1か月の短期留学。英語のできなさを痛感する。

大学2年9月

1年間の留学を決意。英語能力証明試験の勉強や、留学手続きなどに奔走する。

大学3年
4月～2月

イギリス・リーズ大学に留学。

大学4年4月

国際機構法のゼミに所属。学生生活後半、大変お世話になる先生と出会う。

大学4年前期

ゼミでPM2.5問題に取り組み、環境問題が国境を越えて協力すべき課題であるということに外交上の可能性を感じる。

大学4年12月

院進学を視野に入れ始める。ゼミ合宿で在韓国日本大使館を訪問したことをきっかけに、公益性が高く国際問題にも関われる職業に就きたいと思い、公務員受験も決意。

大学4年2月

予備校の通信講座を受け始める。院進学とも迷い続ける。

大学5年前期

公務員試験受験。勉強不足で行きたいところは不合格。院試に頭を切り替える。

大学5年9月

大学卒業。大学院入学までの間、先生のご厚意で院の授業に参加させていただく。

大学5年12月

大学院で自分がやりたい勉強ができないのではと思い始め、今後2年間に費やすことが将来に役立つのか悩む。

大学5年2月

今年改めて公務員を受験することを決意。試験対策を始める。

* 1次試験対策

区分：大卒政治・国際

席次 20～30： /52人

予備校 あり・なし・**一部利用**

専門

◎憲法・行政法・政治学

予備校の通信講座を一通り受けて、論点をカードにまとめたものをひたすら繰り返し読んで覚えました。都庁対策をずっとしていたので、都庁の過去問を分析して模範解答を作って、単語と論点と流れをおさえるようにしていました。

◎国際法

大学の専攻分野で、院試の問題と同系統だったため、直前の1週間まで特に対策はしませんでした。

◎行政学・社会学・国際関係学

友達からもらった予備校のテキストを一通り読み、本屋でわかりやすく簡潔に論点だけをまとめた参考書を買って勉強しました。

◎公共政策

特に何もしてません。

教養

◎数的処理・判断推理・資料解釈

毎日10～20問ずつ解いてました。都庁の試験ではほぼ満点でしたが、国総の問題は段違いに難しく3割ぐらいしか解けませんでした....

◎文章理解・英語

他の科目に飽きた時の息抜き程度に過去問を解いてました。

◎人文科学・社会科学・自然科学・時事問題

大学受験できちんとやらなかったハンデがあり、また都庁の教養が7割～8割取れてないと足りなかったため、広く浅くやりました。

* 2次試験対策

専門記述

過去問を一通り眺めてみて、出題の運に任せるしかないと思い、それまで同様論点の復習を繰り返しました。国際法は院試の時に作ったノートを見返したりしました。学部の試験で論述は慣れていたので、実際に書く練習はしませんでした。

政策論文

何もしてませんでした。

勉強にかけた時間 約750時間

1次：700時間（専門：教養＝5：3） 2次：50時間

人物試験

とりあえず面接シートを書いて友達に見せたところ、書いてある内容がバラバラでどんな人なのかイメージしづらいつ言われました。なので、自分がどういう人間なのかを整理するために、**小学生くらいから現在までにやってきたことや興味を持ったことについて書き出し**、それを基に一貫性を意識しながら面接カードに書くエピソードを決め、**書いたものを色んな人に読んでもらいました**。1度読んでわからなかったと言われたところは簡潔に書き直したりして、面接カードを仕上げました。

実際の面接はカードに書いた3つのエピソードを順番に聞いていく形でした。面接の練習はアウトプットが肝心なので、とにかく色んな人に聞いてもらって、**自分の考えを言語化できるようにするのが大事**だと思います。



T.K. の場合

* 大学時代打ち込んだこと

大学1年次から学内有数の規模と実力を
持つテニスサークルに所属し、小学生から続
けているテニスと関わる活動を選択しました。2
年夏からは幹部の中心の1つである副幹事
長に就任し、テニスの実績を求める組織と友
人作りの場としてのあり方のバランスを求めて
運営に当たりました。(1人の選手として団体
戦等で活躍した経験もあります)

アルバイトもしており、はじめは海鮮居酒屋で
3年ほど働き、その後に自分のイギリス好きが
影響して英国風パブで働き始めました。

**テニスサークルにアルバイトという非
常に典型的な大学時代**を過ごし、特にコレと
いって特殊な経歴を持った人間ではありません
が、自分と似たような大学時代を過ごしてい
て国家公務員を目指している方は是非お声
かけください。少しでも力になれるアドバイスが
できればと思っています。

* 併願状況

公務員：なし

民間：金融、商社、プラントエンジニアリング

* 志望理由

国家公務員という職業を目指したのは、広く社会に貢献する仕事に携わりたいと思っていたことからでした。
その中でも環境省を選択した理由は2つあります。

ひとつめは、幼い頃から登山等で自然とは関わる機会が多かったことをきっかけに、そういった自然だけで
はなく将来的には人類そのものの生存に関わる課題である環境問題に携わる行政に興味を持ったからです。
ふたつめは、環境省の説明会等に参加する中で魅力あふれる職員の方や、言葉に惹かれたからです。

私も魅力あふれる職員の方々の一員になりたいと強く思うようになったため、環境省を志望するようになりました。

大学2年夏

国家公務員試験の受験を決める。

大学3年夏

サークルを引退し、本格的に勉強を開始。

大学4年夏

1度目の官庁訪問に挑戦、そして失敗。

大学4年秋

民間企業等のインターン等に
参加し、来年の官庁訪問に
向けた対策に取り組む。

大学5年春

環境省を第1志望とする事を
決意。

大学5年夏

再びの官庁訪問へ。

* 1次試験対策

区分：大卒法律

席次：50~100 / 約390人

予備校

あり・なし・一部利用

専門

民法、憲法、行政法の全てを通じて同じ形の勉強の仕方をしていました。

試験前半ぐらいからは

①過去問を解く→②間違えた問題を復習→③理解できない点は教科書等を読む→過去問を解くの繰り返しをしました。

試験までに時間があつた頃は一通り基本書等の勉強をしていました。2次試験で役に立ったような。。

専門の選択は商法、労働法、国際法の解けるものを選択するスタンスで、経済学はやりませんでした。選択法律の勉強は過去門だけで十分だったと思います。

教養

◎文章理解

大学受験等を通じて国語は基本的には得意分野で英語の文章理解も受験時代の積み上げや慣れがあつたため専門の勉強中の気分転換がてらに解いていました。

◎数的処理、判断推理

正直得意ではありませんでしたが、コレといって注力はせず1日5問など決めて考えることに慣れるようにだけしていました。

◎その他教養

大学受験の参考書等を読んだりもしましたが、専門を優先させ終盤はほとんど何もせず、過去問も傾向や問題の雰囲気のみをみる程度でした。

* 2次試験対策

専門記述

1次試験対策の時から、文章を書く際に論点になりうる所に関しては覚えるように意識して勉強していました。また、週に1回は実際に書いてみる時間を設けて、慣れてきて試験に近づくと、時間を計ったり、何も見ずに書いてみたりするように移行しました。

また勉強段階では書き方や論点を学ぶために司法試験対策の参考書も読んだりしました。

政策論文

予備校の講義を受け、過去問を2回ほど書いてみて、その後は特に書いたりせずニュースや社会問題を取り上げた本などを少し読んだり、答案を製作する上で注意すべきポイントを勉強してただけでした。後はぶっつけ本番！

勉強にかけた時間 約1200時間

1次：800時間（専門：教養＝4：1） 2次：400時間

人物試験

面接対策の本を数冊購入し、少し自己分析をしただけでほぼぶっつけ本番でした。おそらく面接の完成度はきわめて低く、何とか最低点だけをクリアした程度で、筆記の点数から面接の点数でかなり順位を下げてしまったようにおもいます。

筆記の勉強も大切ですが、その後の官庁訪問も含めて面接の対策はしっかりと行っておくべきであると思います。



T.H. の場合

* 大学時代打ち込んだこと

旅行や、アルバイト、ゼミ、読書会などを楽しみました。

学業については、法学や政治学だけでなく、歴史学や社会学、哲学、文学、建築など、できるだけ幅広い分野にアンテナを張るように心がけていました。

また、体験によってしか学べないことも多いと思い、アルバイトや旅行に取り組みました。

特にニューヨーク・ボストンを旅行したとき、キャッチアップ型の成長を疾うに終え、課題先進国となった日本が、今後どのような価値や理念を追求していくべきかについて、考えさせられました。

* 併願状況

なし

* 志望理由

民間企業での勤務経験から、環境と経済の両立・好循環により、持続可能な日本を築いていきたいと願うから。そしてそのためには、民間企業の現場からの目線と、環境省のバック・キャストの視点のいずれもが必要であり、それらを兼ね備えた政策実務者として活躍したいと思うから。

また、私自身が自然を愛し、旅行や短歌づくりを生き甲斐にしてきたので、日本や世界の美しい自然を、はるか未来の世代にまで連綿と守り伝えていきたいと願うから。

更に、環境省の職員の方々の誠実さや、将来世代に対する強い思いに惹かれました。

学部時代

旅行やアルバイト、読書会を楽しみました。国際政治学や福祉国家論、政治哲学など、色んなゼミに所属しました。

恩師に、政治学者を目指さないか、とお誘い頂き、真剣に考えました。しかし、分析する人よりも、社会の真っ只中で多くの人と関わりながら「行動する人」になりたいと考え、大学院では法を学ぶことにしました。

大学院時代

法律を本格的に学びました。諸外国の法制度の比較などを通じ、立法政策の作用と副作用に関心を寄せました。

社会人時代

民間企業で働く中で、環境と経済の両立可能性や、規制が促すイノベーションについて考えました。「持続可能な日本をつくるために、環境政策の担い手になりたい」と願うようになりました。

* 1次試験対策

区分：院卒行政

席次：1～5 / 204人

予備校 あり・なし・一部利用

専門

- ◎憲法、民法、行政法
いずれも、ざっと過去問に目を通しました。
- ◎政治学
学生時代に購入したテキストを読みかえました。

教養

特に対策はしませんでした。

* 2次試験対策

専門記述

まず過去問をチェックし、よく出題されるトピックに焦点を絞って、基本書を読みました。

勉強にかけた時間

仕事と両立していて、規則的なものではなかったため、何時間くらいかという把握は難しいです…。

政策討議

ここでは、企業での会議の経験や、学生時代のゼミや読書会でのディスカッションの経験が役に立ちました。いかに**柔軟に反対意見を受け容れ、議論の全体の流れや時間的な制約に責任を持ちつつ、自分自身の意見をコンパクトに表現できるか**が問われているのではないのでしょうか。参加者の誰もが気持ちよく議論を終えることができれば、理想的です。

対策としては、大学のゼミやサークル運営等におけるディスカッションの機会に、建設的な役割を果たせるように心がけることが有効だと思います。

人物試験

自分自身のこれまでの経験と、どのような行政官になりたいか・どのような日本にしていきたいか(幾分おこがましい言い方ですが)、といった基本的な考えについて、整理しました。

説得力豊かな面接シートを作成することが、そのまま面接対策にも直結すると思います。



K.H. の場合

* 大学時代打ち込んだこと

大学に入り1,2年はひたすら釣りに行っていました。玄界灘があるから九州を選んだようなものだったので、前々からしてみたかった場所でガッツリ釣りに打ち込みました(それなりに法学の勉強もしながら…)

釣りサークルにも所属しており、離島に渡ったり船に乗ったりしていました。釣り場で見ず知らずのオジサンたちと一晩中釣りの話をするのは最高です(ビール飲みながら)。

アルバイトもしていましたが、結局これも海鮮居酒屋で魚を捌いたりなど、魚から離れていませんでした。

3年後期になるとゼミや公務員試験勉強などの影響でなかなか以前の頻度で釣りに行くのが難しくなりましたが、就活が終わった今、以前のペースに戻そうと意気込んでいます。その他だと博多-熊本をサイクリングで走破したり、基本的にアウトドアな学生生活でした。

* 併願状況

地方上級(神戸市)3次試験辞退
国税専門官試験最終合格(採用面接はしていません)
国家一般職最終合格(官庁訪問はしていません)
※民間就活はしませんでした。

* 志望理由

○環境省に興味を持ったきっかけ

ずっと私は自然や生物が大好きで、これらを将来の子供たちに残していく仕事に就けたらいいなと思っていました。そして自分の将来を本格的に考えだした大学2年のとき、環境省のパンフレットを見て一気に国家公務員・環境省というものに興味を湧いてきました。

○志望理由

私は日本の自然や生物多様性の保全に携わりたいと思って環境省を志望しました。環境省に興味を持ってから、自分で調べるうちに生物多様性が世界規模で危機にあるということを知り、強い問題意識を持ちました。そして、自分もこの問題に取り組みたいと志望を固めました。

○「人」の良さ

官庁訪問では、本当にいろいろな職員の方々のお話を聞くことができ、環境省の扱う仕事の幅広さを痛感しました。そして環境省職員の方々は、とても柔和でありながら熱い人が多く、質問に対する私の稚拙な解答に対しても丁寧に対応、指摘してくださるばかりで、この人たちと一緒に働きたいと感じました。

大学1年4月

大学入学 バasketボールサークル入部

大学1年
1月～

釣りサークルができる。入部。フクロウカフェでアルバイト。

大学2年4月

居酒屋でアルバイト。

大学2年
夏休み

タイに短期交換留学 はじめてまとも
に海外に出て海外に友人ができる。
国際的な仕事もおもしろそうだな
と思います。

大学2年後期

たまたま環境省のパンフレットを見
る。一気に興味をそそられる。

大学3年前期

公務員試験受験を決める

大学3年後期

公務員試験勉強を始めると同時に、
ゼミで模擬裁判などを行い、慌
ただくなる。民間企業の説明会に
もできる限り参加したが、結局環境
省が一番魅力的だった。

大学4年
5月～

公務員試験受験

* 1次試験対策

区分：大卒法律

席次：1～50/569人

予備校 あり **なし** 一部利用

専門

◎憲法・民法・行政法

勉強方法としてはひたすら過去問を解いていました。未出題の判例についても新しいものについては一通り目を通しました(『判例百選』等で)。

◎労働法・刑法

これらの科目も基本的には過去問を解いていました。ただ総合職の過去問だけでは少ないので、あらゆる公務員試験の過去問を解いていました。

◎財政学・経済学

これら2科目も時事問題でも聞かれそうな科目だったので勉強しました。財政学はひたすら数字の暗記なので苦痛でしたが、暗記カード(久しぶりに使いました)などを作って覚えました。

教養

◎文章理解

過去問をすこしやりました。

◎判断推理・数的処理

問題集を繰り返しやりました。ただ、やらないよりはまし、だった程度で、本番も全く得点源にはなりませんでした。私は数的より、文章理解で点を稼ぐことにしました。

◎時事問題

市販の時事本を直前に読みました。

◎その他知識系

自分が高校のとき選択していた科目のみ、さらーっと復習しました(数的できる人なら全くノータッチでもいいと思います)。

* 2次試験対策

専門記述

1次試験が終わってから、2次試験の過去問を見て論点を抽出する作業を、あらゆる試験種の問題についてしていました(実際に解答を作ったことはなかったです...)。択一の勉強の際に、判例の結果だけを暗記するのではなく、事案の概要や判例の論理構成まで気を配りながら勉強すると、記述対策に有効だと思います。

政策論文

数年分の過去問を眺めただけで、特に対策はしていません。

勉強にかけた時間 800時間

1次：760時間(専門：教養=7：3くらいかな...) 2次：40時間

人物試験

まず面接カードの添削を友人同士で重ね、時には去年人物試験を受けた先輩にも添削してもらいました。**指定された事柄に沿って、自分が伝えたいことがいかに文章に現れているか**が重要だと感じました。そのチェックは必ず第三者にみてもらうべきです。面接はこのカードから外れることはほぼないので、このカードは非常に大事だと思います。

面接練習もやはり基本的には友人同士で行っていました。これも多くの人にしてもらうとその分、指摘も多様になるし、慣れも進むので、いろいろな人と練習をして場慣れできれば有利だと思います。

私の友人では、ハローワークや大学の就職相談室に足しげく通っている人もいました。

官庁訪問 アドバイス

試験を突破したら、官庁訪問が待っています。
年によって変更が加わることもあるため謎に包まれた部分も多い官庁訪問ですが、わたしたちの経験を包み隠さずお話しします。

1. 官庁訪問の基礎知識
2. ひとりひとりの官庁訪問体験記
の二部構成になっています。



官庁訪問の基礎知識

* 官庁訪問のスケジュール

2016年8月の例

※毎年変わりうるので、必ず人事院HPでご確認を！

日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	
			第1 クール				
7	8	9	10	11	12	13	
	第2 クール			山の日	第3 クール		
14	15	16	17				
		第4 クール	第5 クール				

17:00に
内々定解禁

官庁訪問とは？

官庁訪問とは、国家公務員総合職試験に合格した者が官庁に採用してもらうために実際に省庁に行って面接してもらうものです。

各訪問者は3つの省庁(例えば第1クール1日目に環境省、2日目に厚生労働省、3日目に国土交通省)を回り、1日をかけて面接で評価されます。上の図でいえば8月3～5日が第1クール、8～10が第2クール、12・15日が第3クール・・・といった具合です。そしてそれぞれのクールで1～3つの省庁を回ります。

面接の形式

環境省の官庁訪問の面接には、主に人事面接と原課面接という2つの形式があります。(他省庁も大体同様。)

【人事面接】

秘書課(省庁によっては人事課)の職員と面接を行い、志望動機や学生時代頑張ったことを話します。一般の面接のイメージに近いものです。

【原課面接】

実際に働いている職員の方を伺い、省庁の業務に関する理解を深める面接のことをいいます。

*大まかな1日の流れ

入口面接

・会う人:採用担当者
・内容:訪問カード※の内容を中心(環境省や他省の志望動機、興味関心のある政策分野など)に聞かれる。



原課面接

・会う人:政策運営等を行う担当職員
・内容:人によって異なるが、主に携わっている仕事の内容を聞くことができる。ひたすら訪問者に質問をしてくる場合も。



人事面接

・会う人:採用担当者
・内容:最初よりも深く訪問カードの内容を中心に聞かれる。



出口面接

・会う人:採用担当者
・内容:その日の評価、今後に対するアドバイスなどがある。

3～4回繰り返される

※訪問カードとは?

自身のプロフィールや志望動機などを記すもので、これをもとに面接が行われていく。最終合格発表前後に公開されるので、前もって目を通しておく良い。

*官庁訪問全体を通したアドバイス

官庁訪問前にした方がいいこと

まずは官庁訪問についてしっかり制度やルールを把握しておくことが大事だと思います(特に地方出身者は事前の情報が少ないこともあると思うので、前年の官庁訪問経験者の先輩などから、官庁訪問の雰囲気なども含めて事前に話を聞いておく、精神的に余裕を持って臨めると思います。都市伝説的なものに振り回されない程度に...)。それから官庁訪問カードは当日書くこともできるようですが、ほとんどの訪問者は事前を書いてきているので、前日までには用意しておくことをオススメします。

官庁訪問の持ち物

筆記用具と手帳あるいはノートは必須です。原課面接では長いときは1時間以上業務説明を受けたりすることがあります。そのため適度にメモを取りながらでなければ、後で面接の振り返りができなくなります。

飲み物等は待合室の十分用意されているのであまり必要ないかなと思います。ただ食事の時間等は指定されるので、小腹がすいたとき用の軽食程度はあるといいかもしれません(お菓子も多少はありますが)。

また、官庁訪問中もいろいろ資料をいただいたりすることがありますし、待合室にも白書など置いてあるので、説明会などで貰った資料等は、自分が面接前に見たいと思うようなものだけ持参すればいいと思います。

待合室での過ごし方

待合室では基本的に何をしてもいいです。喋っている人もいれば、机に突っ伏して寝ている人もいました。ただし、面接から帰ってきたらすぐに待合室でそのまとめをすべきだと思います。その理由は、まず面接の中で聞いたこと、あるいは自分が話したことを記憶が新しいうちに整理した方がいいということ、そして、面接と面接の間隔がかなり短いことがあるということです。

服装について

訪問者の方々には基本的にみなさんクールビズでした。なかにはポロシャツの方もおられましたし、クールビズ発祥の地だけあって、服装については他省庁に比べラフな印象でした。

官庁訪問中の休日の過ごし方

官庁訪問は体力勝負などところがあるので、休日は疲れをとり、体調管理をしっかり行うことが優先です(私の友人にも、熱でダウンして1クール1,2日目ホテルで寝てたやっがいました)。それと並行してそれまでの面接等をまとめたり、志望動機を練り直したりという作業もしておいた方がいいと思います。

ただこんなもの丸1日かけるものでもないもので、後はカラオケでもゲーセンでも思いっきりフレッシュしたらいいと思います(個人的に私は地方出身なので、東京の博物館にいくつか行ってみました。友人は男一人でTDLに行っていました。それがいいとか悪いとか言ってません。)

官庁訪問 体験記





M.A.の場合

1日目 環境省 → 2日目 農林水産省 → 3日目 文部科学省

* 官庁訪問前

環境省以外の志望理由

農林水産省

自然を利用することで成り立っている第1次産業は、自然環境保全の要であると考えたため。耕作放棄地や里山の荒廃など、担い手がいなくなったことで破壊される自然がたくさんあるため、農業や林業、水産業など産業を通してのアプローチで、自然環境保全に関わってみたいと考えました。

文部科学省

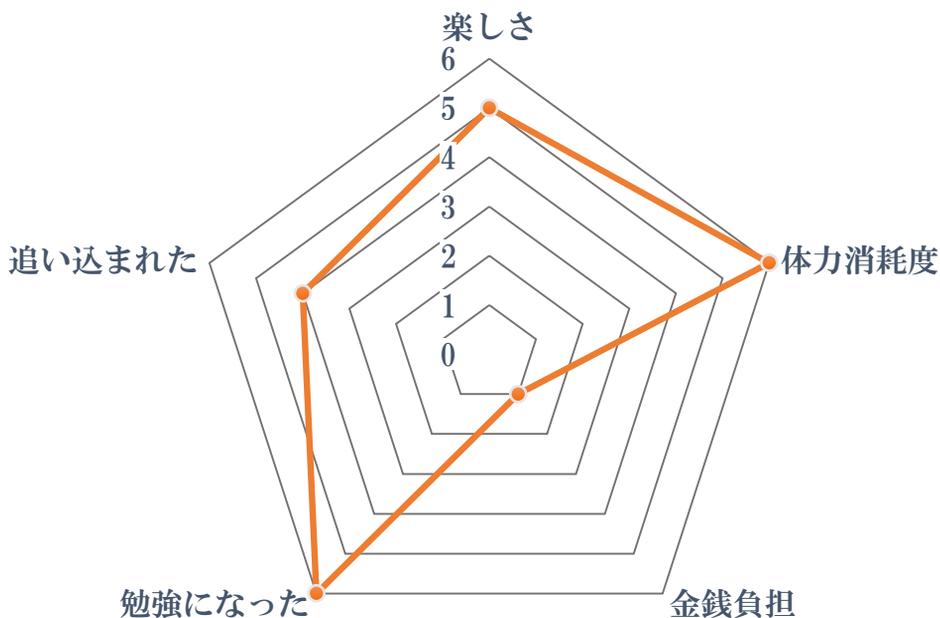
環境活動で研究者の方々と出会い、お話する機会が今まであり、もっとこの人達の研究を世の中に広め、支援したいと考え志望しました。

官庁訪問でしきりに、教育に興味を持つ人は多いけど科学技術分野の人は珍しいねと言われました(笑)

環境省の官庁訪問前にやったこと

- ・ 人事院面接の時にやった自己分析ノートを読み返す
訪問カードの記入のためと、面接の時に質問に満足に答えられるようにするために、念のため読み返しておきました。
- ・ 白書を読む
読もうとしましたが、読んでいるうちに、自分の言葉なのか白書の言葉なのかわからなくなってしまいそうで、5分くらい読んで読むのをやめました(笑)

* 官庁訪問を終えて



総合評価



*環境省の官庁訪問は…

待合室の雰囲気 ★★★★★

受けてきた面接のまとめをノートに書いて、それが終わったらいろいろな話を他の受験者としていました。他の受験者と会話をすれば、興味深い話をみんながしてくれてとても面白かったです。

あと、なにより椅子の座り心地が非常に良かったです(笑)

面接の雰囲気 ★★★★★

他の省では、1つの面接の時間が30～40分くらいでしたが、環境省では1～2時間面接をしていただくこともあり、じっくりと話を聞いていただけたし、自分も気になることがなくなるくらいまで詳しくお話を聞くことができました。

食堂の充実度 ★★★☆☆

環境省で食堂に行くチャンスは巡ってきませんでした…。コンビニは品揃えがいいので問題はないです。農林水産省の食堂には海鮮丼があるなど豪華で、文部科学省の食堂は新しく綺麗でした。どちらもおいしかったです。ごはんの量が多いので、特に女の子は少なめと注文しないと眠くなるかもしれません。

*印象に残っていること

嬉しかったこと

自分が何をしたいのか、どのような考えなのかじっくりと聞いてもらったこと。それと同時に、面接をしていただいた職員の方々の考えも話していただいて、なかなかできない意見交換の連続だったことが嬉しかったです。

困ったこと

第1クールは朝早くから夜遅くまでが3日間続いたので、体力がとても削られたこと…。1日中脳をフル回転させるので、途中でチョコレート等を食べたくなくても持っていなかったので少し後悔しました。

*環境省に決めた理由

農林水産省、文部科学省も訪問し、そのどちらにも魅力を感じました。それでも、国家公務員を目指し始めた時に思っていた「環境省に行きたい」という意志が変わらなかったのは、以下の2点が大きく関係しています。

1つめは、環境省の理念です。国家総合職は数年ごとに異動になるため、自分が1番興味ある分野に関わり続けられるわけではありません。**自分の興味分野ではなかった分野で働くことになったとしても、環境省で働く限りは循環型社会を作ること**に貢献し続けられることに強く魅力を感じました。また、官庁訪問でお話を伺った様々な分野(生物多様性、廃棄物、原発関係、水俣病の対応など)について、どれも興味を持ったので、どこに行っても大丈夫と思いました。

2つめは、環境省で働く人です。これに関しては言語化するのが大変難しいのですが…お会いした人皆さんが、信念を持って仕事をされているような印象を受けたこと、また、クールビズや男性の育休取得など、積極的に**パイオニア**としていいことを実践する**土壌があるように感じた**ことが大変魅力的でした。



H.I. の場合

1日目 環境省 → 2日目 戦略的お休み → 3日目 内閣府

* 官庁訪問前

環境省以外の志望理由

内閣府

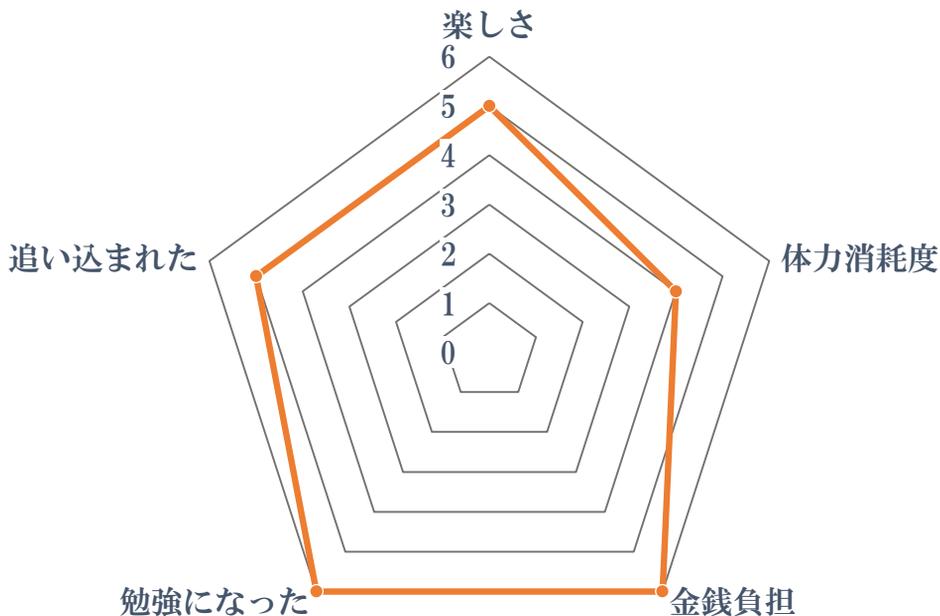
子ども(将来世代)のために何かしたいとずっと考えていて、子どもの貧困対策のNPOで働いていたため、子どもの貧困対策を行う内閣府を志望していました。また、政府広報や防災などを大学院で勉強していたこともあり、いろいろなことをやれるなと思ったのも志望した理由です。

環境省の官庁訪問前にやったこと

面接カードに記入したものをすらすら言えるよう、声に出して練習したり、質問を想定して、ある程度の答えを想定していました。

また、環境白書を購入して読み、重要だと思うところに線を引いていました。ただ、情報量が多く読むのに時間がかかるため、第1部の総論のような部分や重要施策の部分を中心に読んでいました。

* 官庁訪問を終えて



総合評価

★★★★☆

*環境省の官庁訪問は…

待合室の雰囲気 ★★★★★

軽快な音楽を聴きながら、窓の外に広がる霞が関の街を夕日が照らします。環境省らしく再利用可能なコップで飲むお茶と、美味しいお菓子をいただきながら、座り心地の良い椅子に深めに座り談笑。とても居心地の良い待合室でした。

面接の雰囲気 ★★★★★

これは環境省に決まったからというわけではなく、良く私を見ていてくださる面接でした。また私の良いところ、悪いところを率直に言ってくださるので、成長できる環境だと思いました。

食堂の充実度 ★★★★★

基本は地下1階のコンビニで飲食物を購入することになります。途中、若手職員さんのすすめで26階の中華料理屋に行ったのですが、値段も手ごろで美味しいものが食べられました。

*印象に残っていること

嬉しかったこと

どの職員さんも自分の考え方をよく聞いてくださり、そのうえで僕の考え方の良い点悪い点をレビューしてくださったので、官庁訪問中でかなり考えが深まったように思います。また、職員さんの目指す日本の将来像のお話とも伺って大変勉強になりました。

困ったこと

あまり困ったことはないですが、如果说えば夜の環境省が暑かったことですかね。顔を拭くシートや飲み物の準備などをおさしましょう。

*環境省に決めた理由

○どの省庁にまわるか

官庁訪問3年目の私にとって、どの省庁にまわるのかといったことは非常に悩みました。

私としては「子どものため」に何かしたいという思いがやはりあり、特に環境が重要であるということは、研究で中国に訪れた経験や、公共政策大学院での環境政策の授業を受けて思ったことです。ただ、その一方で、「子どものため」に何かできるのは福祉や教育等さまざまなアプローチがあるのも事実だと思い、悩みました。

○環境省に決めた3つの理由

そんな中で、説明会や官庁訪問を通して、環境省に決めた理由は以下の3つになります。

1つめは、「現場を考える」省庁だということです。これは説明会や官庁訪問で、**環境政策は特に現場の人のことを考えた制度形成を行う必要がある**とわかったことです。

2つめは、多様ともいえる環境政策のアプローチがありつつも、「職員さんの目指すゴールが同じ」だったということです。官庁訪問中にどのような日本を目指すべきかいろいろな方にお話を伺っていたのですが、温暖化対策や環境経済、放射性物質対策など様々な部署を経験されている方々が、「**持続可能な社会**」という**同じ方向を目指してお仕事をされている**ところに組織としての魅力を感じました。

3つめは、よくある「人」です。正直言うと、就職活動を人で決めた、というのはあまり好きな表現ではなかったのですが、単純に尊敬できる職員の方が多かったのが決め手の1つです。



K.A. の場合

1日目 外務省 → 2日目 文部科学省 → 3日目 環境省

* 官庁訪問前

環境省以外の志望理由

外務省

ODA協力や環境協力、公共外交といったソフトパワーを軸とした外交政策を通じて、国と国との相互理解を深め、より良い国際関係の構築に日本の立場で携わりたいと考えたため。

文部科学省

文化財を保護するだけでなく地域の活性化や訪日誘致に積極的に活用していくことで、日本の魅力の促進と発信を行いたかったため。また、海外を身近に感じられるような英語教育によって、日本を的確に発信できるグローバル人材の育成に取り組みたかったこともあり、志望しました。

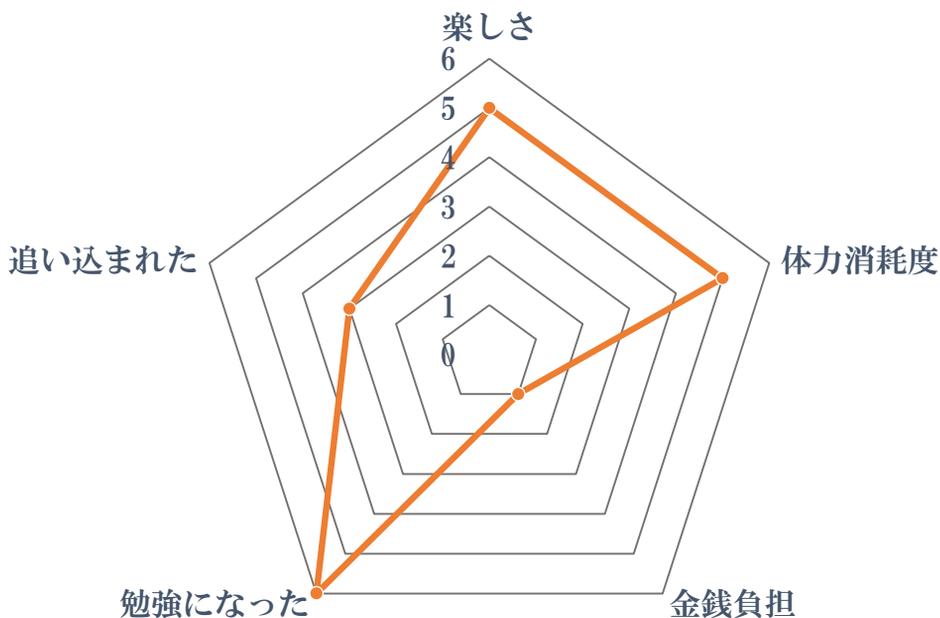
環境省の官庁訪問前にやったこと

思いがけない最終合格だったので、官庁訪問についての知識がほぼ皆無、説明会も1回しか行っておらず…官庁訪問経験者の知り合いに連絡して雰囲気や注意点を聞きました。

前日までレポートの締切が重なっていたこともあり、訪問者カードを事前に用意することができなかったのは本当に失敗でした。(環境省に至っては当日の朝書きました。激しくお勧めしません…。)

面接カードやまとめノートを見返すぐらいの対策しかできませんでしたが、いらぬ情報に振り回されるよりは、自然体で臨めて良かったと思うことにしています…。

* 官庁訪問を終えて



総合評価

★★★★☆

*環境省の官庁訪問は…

待合室の雰囲気 ★★★☆☆

カフェミュージックみたいな音楽が流れていて、リラックスできます笑。他の志望者ともあまりピリピリすることなく意見交換できる雰囲気でした。

面接の雰囲気 ★★★★★

私が訪問した省庁の中では、1回あたりの原課面接にとっていただく時間が1番長かったです。納得するまでお話が聞けて勉強になりました。

食堂の充実度 ★★★☆☆

食堂には行かなかったのでわかりませんが、金曜の夜にコンビニに行ったらちょうど需要の多い日だったらしく、ほとんど品切れで泣きたくなりました。

*印象に残っていること

嬉しかったこと

自分の拙い話に真摯に向き合ってくれたこと。そしてその上で、どこが良くてどこが悪いかをきちんとフィードバックしていただいたこと。

自分の青臭い考え方に対して、「そういう考えを持つてる人が必要なんだよ、ぜひ一緒に働きましょう。」と言って頂けたのが、涙が出るほど嬉しかったです。

困ったこと

帰りが終電近くなる日も少なくなかったもので、体力的にきつかったです。1日1回は控室で仮眠をとっていた気がします。ごはん直後が眠くなるので危ないです。

*環境省に決めた理由

環境省に決めた理由は大きく分けて3つあります。

1つ目は環境問題に取り組むことの重要性。**環境問題は日本だけでなく世界に、現在だけでなく未来に影響する深刻な問題**で、そこに貢献することにやりがいを感じました。

2つ目は環境という分野のすがすがしさ。環境問題は**外交関係が悪化していても国と国とが協力して取り組める課題**であり、またどんな分野に携わっても**最終的には持続可能な社会のためという正しい理念に向かっている**ところに魅力を感じました。

そして3つ目は人です。官庁訪問中にお話をうかがった職員の方は、どなたも**冷静かつ温和でありながら熱い理念をもってらっしゃる**印象を受けました。また、どの方も私の拙い話に誠実に応え、意見を言ってくださる方ばかりで、この人たちと一緒に仕事がしたい！と心から思いました。



T.K. の場合

1日目 環境省 → 2日目 防衛省 → 3日目 法務省(入国管理局)

* 官庁訪問前

環境省以外の志望理由

今後の日本のあり方に携わることのできると考えていた所を訪問させていただきました。

防衛省

日本が今後どのような分野に力を入れていくにしても、国そのものがなくなってしまったらどうしようもないと考え、訪問しました。

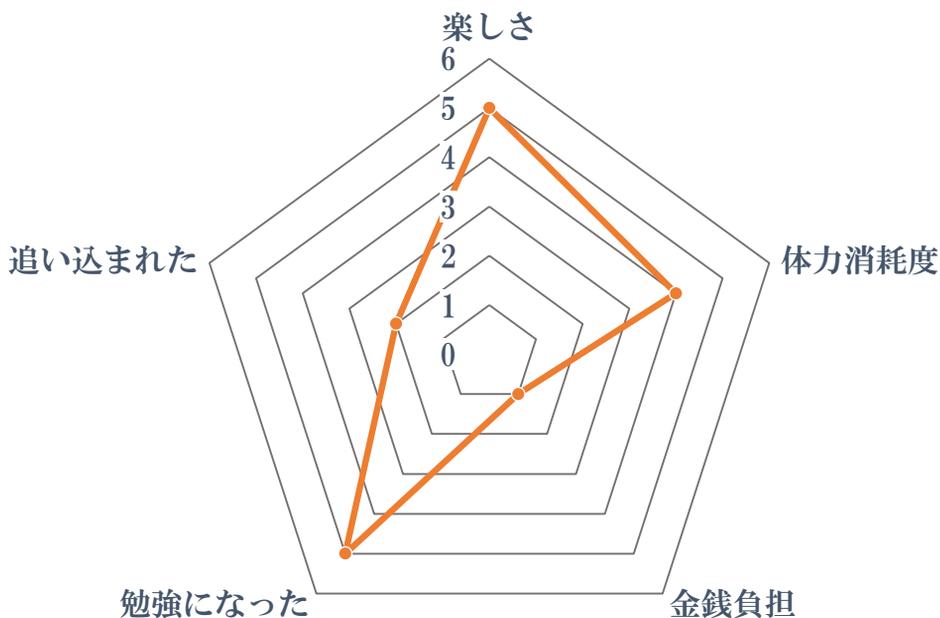
法務省 (入国管理局)

アルバイト時代に東南アジア出身の方々とたくさん一緒に仕事をさせていただき、そんなことから日本の入国管理行政に興味を持ち訪問させていただきました。

環境省の官庁訪問前にやったこと

- ・ 質問をさせていただく機会がたくさんあるので聞きたいことをリストアップ
- ・ 志望動機はアツク話せるように詰める
- ・ 面接カードを基本に、楽しく話せるように内容や話をまとめて、ブックを作る

* 官庁訪問を終えて



総合評価

★★★★☆

*環境省の官庁訪問は…

待合室の雰囲気 ★★★★★

待合室の雰囲気はとても良かったです。音楽が流れていて、とてもリラックスができました。飲み物のコップがリユースコップなのも環境省らしかったです(笑)

面接の雰囲気 ★★★★★

環境省の官庁訪問での面接は非常にフレキシブルで、非常に盛り上がり、かなり長くお話をさせていただくこともありました。また職員の方が非常に誠実で、熱く話しをしていただけましたし、私の意見も優しく聞いていただけ、本当に勉強になる時間を過ごさせていただくことができました。

食堂の充実度 ★★★★★☆☆

食事はコンビニでしか取れませんでした。私のおすすめはバナナです(笑)

*印象に残っていること

嬉しかったこと

自分がその場で面接をしていただいた職員の方に意見を思い切って言ってみたときに、その意見に対してポジティブにフィードバックをいただき、その上で足りない部分やもっとこう考えたほうがいいという風にアドバイスをいただくことができ非常に勉強になりました。

また、お話をさせていただく中で「難しいこともたくさんあるが、一緒に頑張りましょう」という言葉をもらったときは嬉しかったのはもちろんですが、やってやるという気持ちになりました。

さらに、1回の面接で1人にお忙しい中にも関わらず長い時間を取って、じっくりとそして誠実に向き合ってくださいという印象が他の省よりも強く残っています。

困ったこと

私は千葉に住んでいるのですが、絶妙に遠くも無く、近くも無く、中途半端だったため、夜も遅く、朝もそれなりに早い官庁訪問の期間中はゆっくり休む事はできず忙しい日々でした。

*環境省に決めた理由

2段階あります。

1段階目は官庁訪問の前段階で、説明会等で登壇者の方が口にされていた「**誰かがやらなくてはならない**」「**誰もやらないから環境省がやる**」という言葉でした。自分が長く仕事をしていく中で、自分を奮い立たせてくれるのはこういった言葉を持った人たちと共に行わせていただけること、またこういった言葉を意識して仕事ができる組織の中に身を置かせていただけることが重要であると強く思いました。

2段階目は官庁訪問期間中で、様々な先輩職員の方とお話をさせていただき、どの方も素敵で、一緒に仕事をさせていただきたいと思う人たちばかりだったことでした。



T.H.の場合

1日目 環境省 → 2日目 文部科学省 → 3日目 なし

* 官庁訪問前

環境省以外の志望理由

文部科学省

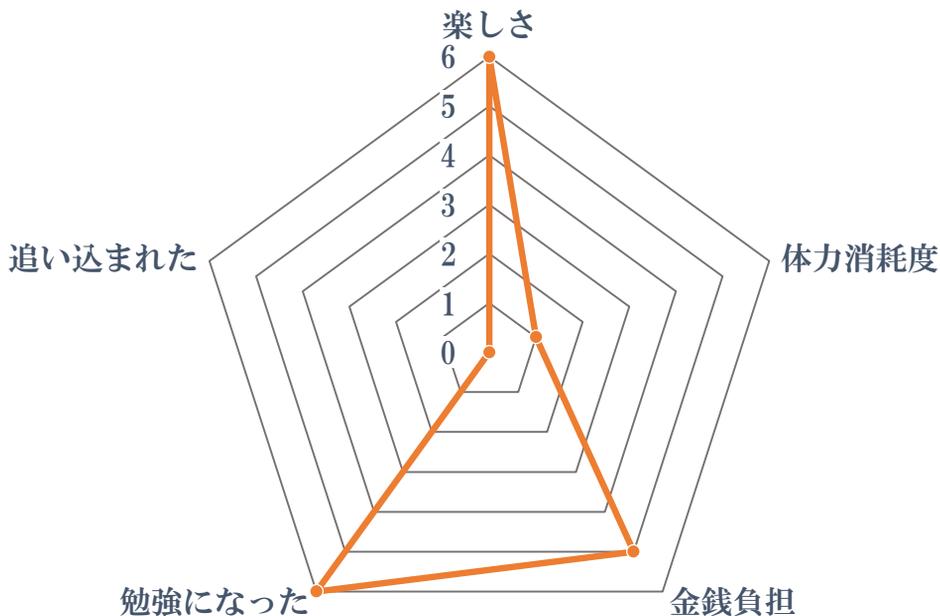
持続可能な日本をつくるには、人の意識に働きかけるために、環境教育的なアプローチも必要であると考えたから。また、科学技術イノベーションの誘導による環境課題の解決に関心があったから。

環境省の官庁訪問前にやったこと

なぜ環境省で働きたいのか、そして環境政策を通じて、どのような日本をつくっていきたいのか、といったことについて、基本的な考えを整理しました。

面接については、平常心で、飾ることなく、悔いの残らないようにありのままの自分を表現して臨もうと考えていました。

* 官庁訪問を終えて



総合評価



*環境省の官庁訪問は…

待合室の雰囲気 ★★★★★

真剣な問題意識を持った、様々なバックグラウンドの志望者の方とお話でき、リラックスしながらも勉強させて頂きました。総じて、和やかに歓談することのできる雰囲気でした。

また、夜には、入省3年目の先輩から、とても勉強になるお話を伺うことができました。

面接の雰囲気 ★★★★★

訪問者と真摯に、誠実にじっくりと向き合い、その良さを引き出そうとして下さっているように思えました。

率直に自分自身の夢や思いを語り、共感して頂ける場面が多く、このような誠実な先輩方のもとで働きたい、と素直に感じました。

食堂の充実度 ★★★★★

官庁訪問期間中は、コンビニで買ったものを待合室で食べていました。

*印象に残っていること

嬉しかったこと

自分自身の夢や思いに共感して頂けたときや、一緒に働きたい、とおっしゃっていただけたときに、深い喜びを感じました。

困ったこと

どなたもとても親切にして下さったので、特にございませんでした。

*環境省に決めた理由

当初から、「環境省しかない」、という強い思いで官庁訪問に臨んでいました。そして、その思いが揺らぐことはありませんでした。

現状のままの日本では、なかなかsustainableな社会であるとは言い難いと思います。**持続可能な日本をつくっていきたい。子や孫に恥じることのない、むしろ誇ることでできるレガシーを残したい…。**そんな思いが私にはあります。

そうした思いに共感し、「一緒に働きたい」とおっしゃっていただける機会があり、その時に、日本のため、また地球社会の将来のために、**このような誠実な職員の方々の期待に応えられるような仕事をしたい、と確信しました。**



K.H. の場合

1日目 環境省 → 2日目 農林水産省 → 3日目 国土交通省

* 官庁訪問前

環境省以外の志望理由

農林水産省

まず1つ目は、日本の里地里山を始めとした農村環境を将来も残していきたいと思ったからです。そして2つ目は、水産資源の保護管理をしっかり行わなければ、美味しい日本の魚が食べられなくなると危機感を感じたからです。

国土交通省

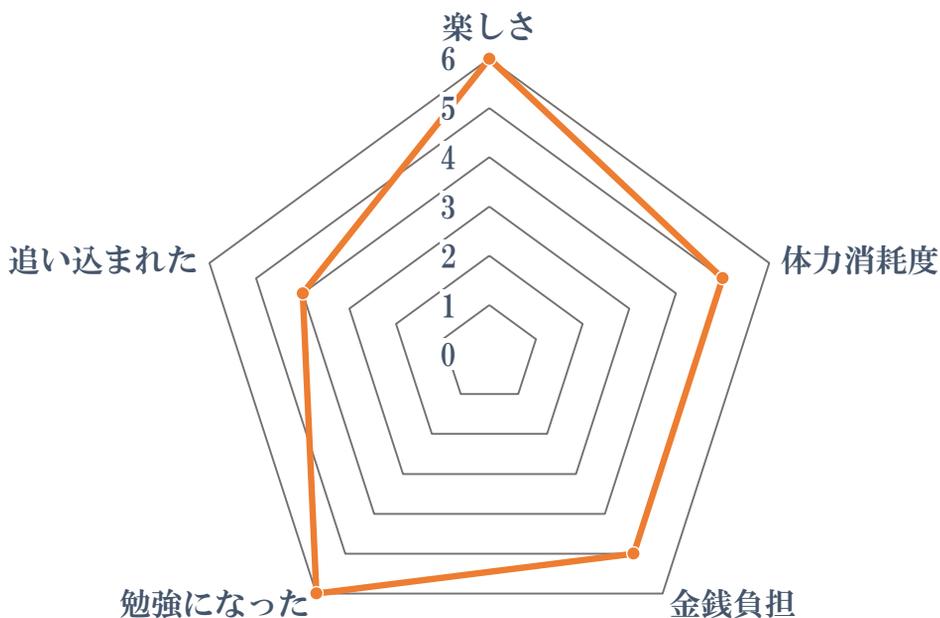
まず1つ目は、運輸やインフラ整備など国交省の所掌事項は環境問題と密接に関わるものが多いと思ったからです。

2つ目は、海洋環境に関する話を深く聞いてみたいと思ったからです。

環境省の官庁訪問前にやったこと

- ・ 徹底的な自己分析
性格や周りからの評価に加えて、それを裏付けるエピソードを思い出す作業等。
- ・パンフレットや説明会資料などを読む
細かい事前知識などは要らないと言われていたが、一応今までに説明会等でいただいた資料には目を通した(白書は読んでません・・・)。
- ・志望動機を徹底的に掘り下げておく

* 官庁訪問を終えて



総合評価

★★★★★ (4.5)

*環境省の官庁訪問は…

待合室の雰囲気 ★★★★★

待合室にいるときは、前回面接のまとめ(これは絶対にした方がいいです、帰ってきてすぐに)をしたり他の訪問者と喋ったりしていて、雰囲気はかなり良かったです。いい感じでリラックスできました(リラックスとても大事ですよ、緊張しすぎてたら咄嗟に頭が回転しませんから…)。

面接の雰囲気 ★★★★★☆

私が回った他省との比較で言えば、環境省の面接が最も柔らかな雰囲気だと感じました。そのためいつも通りの自分のまま面接ができたなという印象です。ただ、晚ご飯を食べて10時過ぎてからの面接は正直かなり眠いときもあり、待合室で自分の顔を引っ叩いてから行ったこともありました。

食堂の充実度 ???

すみません、環境省の食堂は1度も行けなかったのでもわかりません。ただ昼時はめっちゃ混んでました。

*印象に残っていること

嬉しかったこと

原課面接の際に、職員の方からの質問に対して、あまり自信のない答えしか言えなかったときでも、笑顔で「そう、それなんだよ!!」と言われたときは自信になりましたし、嬉しかったです。職員の方が自分1人のために1,2時間も時間を割いき議論をしてくださる機会というのがどれほど貴重か肌で感じました。

困ったこと

眠気です。体力には自信があるので体調を崩したりということはありませんでしたが、眠気には勝てませんでした。官庁訪問中は無駄な夜更かしは厳禁です。

*環境省に決めた理由

私は環境省に決めた理由は非常にシンプルで、**志望動機のところ**で先述したことがここならできると感じたことです。そして2クール目の終わりに職員の方から、「志望動機はもちろんだが、人の雰囲気やフィーリングというものもある。これがマッチしていないと後々お互いに不幸になるから、肌感覚でこの職場が合うかどうかもしっかり見ろ」といわれ、その点もしっかり考えたつもりですが、原課面接をしていても環境省の方のお話が1番面白く、興味も持ったので、迷うことなく環境省を選択しました。

内定者 インタビュー

地方で生活している人たち
留学した人
年齢が普通より高め、今年官庁訪問した人たちに話を聞きました！



地方学生特集

今年度の内定者には、地方で生活しながら国家公務員を目指して頑張っていた人が3人います。地方ならではの話を**トマトのマト**が聞いてくれました！



説明会は参加できていましたか？どうやっていましたか？



仙台
H.I.

民間就活が落ち着いた後、6月下旬から各省の説明会に参加しはじめました。数は多くはないですが、仙台で行われるものは基本的に参加していました。

夜行バスも使い、上京して参加していました。



神戸
T.H.

九州ではなかなか省庁別の個別説明会はありませんでした。そのため、九州地区で開催される人事院主催の合同説明会には必ず参加していました。また実家が関西なので、関西地区で行われる説明会に合わせて帰省することもありました。たとえ全く興味がなかったとしても時間が許す限り説明会に出向いてみるべきだと思います。**関東地区に比べあまり説明会がない地方では、「あー行っとけばよかった」と思っても、もうそれ以上この地区ではない、ということがよくあります。**そして行かなければ「あー行っとけば良かった」と後で必ずなります。



福岡
K.H.



K.H.さんとH.I.さんは上京して説明会に参加することはありましたか？

ありました。
昼行・夜行バスなどを使って安さを重視しながら移動していました。特に、各省の個別説明会などは1度でいろいろな省庁を見ることができるよう**1日に複数の省庁を入れていた**と思います。複数日になる場合は、カプセルホテルなどを利用したり、実家が千葉にあるので帰省したりと、できるだけ出費が増えないような泊まり方をしていました。



ありました。
東京の説明会にわざわざ行く必要があるかという、必ずしもその必要はないと思います。ただ、霞ヶ関を見たこともなかった私にとっては、**東京の説明会に参加したことで、霞ヶ関あるいは各省庁の雰囲気を感じ、モチベーションをキープすることができました。**





官庁訪問期間中はどこに泊まっていましたか？



福岡
K.H.

私は四谷のビジネスホテルに泊まっていました。
東京には全く土地勘がなかったので、
①霞ヶ関から遠くない
②地下鉄に乗るとしても乗り換えがないところ
この二つぐらいを基準に選びました。
実は私は、予約をするのが遅くて、官庁訪問中2回もホテルを変わらなければなりませんでした。これはお察しの通り、ひょー—————に面倒くさいので、**予約は早めにした方がいい**です。

学部の官庁訪問の際に宿泊施設の距離の近さの大切さを痛感したので、丸の内線沿いの駅近くの**ウィークリーマンションを2週間ほど借りました**。安いところであれば7万ほどで借りることができ、荷物の移動が必要ない上に、洗濯機や冷蔵庫、食器まで全部揃っているのでおすすめです。



仙台
H.I.



H.I.さん、官庁訪問期間について、他に何かアドバイスはありますか？



官庁訪問中は男性であればスーツのズボンとシャツが毎日必要ですので、**スーツのズボン2着とシャツ3枚を仙台から持ってきて、近くのクリーニング店を利用して**いました。食事については、ウィークリーマンションの調理器具でそうめんやうどんをつくっていました。

官庁訪問中の土日や山の日には、在来線を利用し、福島や埼玉を旅して環境政策の最前線を見てきましたよ！

福島や埼玉で環境関連の施設や事業を直接見に行き、地球環境の美しさを紹介するものや福島の現状を伝えるDVDも見たりして、環境省に思いを馳せて、モチベーションが高まりました。



関東圏の学生に比べ、説明会の参加回数がどうしても少ないことなどから、モチベーションを保つのは大変ではなかったですか？

早くから、「環境省しかない」という思いが強かったため、いつも強いモチベーションを保っていました！



神戸
T.H.



仙台
H.I.

モチベーションを保つのが難しい状況はあまりなかったです。でも、「環境白書」を見たり、環境関連の本を読んだりしていました。また、大学院に環境を研究している先生がいらっしゃったのでその方にお話を伺ったりしていました。それから、説明会に参加した際の資料を見直す作業がモチベーションを保つ上で役立っていたかもしれません。

モチベーションを保ちつづけるためには、一つは先述のように、**1，2度東京に出向いてみる**ことです。「うおーっ」となりました。

また、周りにもし環境省職員と繋がりがある人を見つけたら、強引に連絡先を聞いて、連絡してみるといいと思います(意外というと思いますよ、私も身内には環境省どころか、公務員もいませんが、探してみると二人見つかったのだ)。

それから、友人と喋ることです。これは環境省あるいは公務員を目指していない人でもいいと思います。同じようなところを目指している人であればもちろん、全く関係ないところを志望している友人でも、その人の話を聞いて「あ、やっぱり自分は環境省の方がいいな」となるので。また勉強の息抜きとしても非常に大事です(朝から喋って気づいたら夜はできるだけ避けた方が)。



福岡
K.H.



では最後に、地方で生活する後輩たちに一言ずついただけますか？

まず、地方出身となると、どうしても官庁訪問に関する情報が不足しがちで、関東の人たちより不利なんじゃないかと不安になると思いますが、官庁訪問に関する情報なんて本当にデマが多いですし、毎年おそらく変わってますし、**全く不利なことはありません**。ほとんど精神的なものだと思います(費用の問題は確かにあります)。ですから、余計なことを考えずに自信を持っていけばいいと思います。

上の質問にもありましたが、おそらくモチベーションの維持が一番難しいと思います。そのときは上に書いたことに加え、志望先の中でも、自分が一番興味のあるものについて、調べて考えたり、あるいは自分が働く姿を想像したりしながら、なんとか乗り切ってください。もし、自分の興味が変わってきたときは(恐らく誰でもあると思います)、あらゆるものを最後選択肢として残していけるように、**とりあえず幅広く先のことを考えてみてください**。

ありきたりなことしか書けていないかもしれませんが、頑張ってください。





仙台
H.I.

地方出身者に不利なのは主に「時間」「お金」「情報」だと思います。移動や宿泊にはどうしても時間やお金がかかりますし、情報も不足します。特に、官庁訪問は情報戦でもありますので、一番重要なのは「情報」だと思います。でも、その情報を取得するために東京に行って情報を足で稼ぐ必要があり、時間とお金がかかりかかってしまい……。そのためにも、例えば昼行バスを使い、できるだけ安い交通手段で移動しつつ、バスの移動時間で勉強や省庁研究をしたり、1日に複数省庁の説明会を入れたりする等して、自分で工夫すればいくらかでも効率化できると思います。

あとは各地方でできることも活かしましょう。例えば大学に環境関連の研究をしている方がいらっしゃったら、その人にお話を伺いに行くでもよし。環境関連で何かやっている施設や場所があればそこに直接見に行くのも良いのかもしれない。

その地方でできることを十分に活かしつつ、効率よく都内に通って有益な情報を手に入れましょう。



神戸
T.H.

環境課題については、地方での取組の積み重ねがとても大切だと思います。また、環境課題への問題意識も、地方の豊かな自然の中で培われるところが大きいと思います。

ぜひ、地方での生活の中で感じた問題意識も活かして、積極的に環境省を志望して頂きたいと思います！



インタビューを通して、自分が将来なにをしたいのかの意志をしっかりと持って、その実現のために必要なことをきちんとこなしていくのが大事なのだなあと感じました。これは地方なのか関東圏なのかは関係なく言えることですね。

働く人の「ふるさと」と思える場所が多様になればなるほど、環境政策は充実していくのかもしれない！

さて続いて、留学経験者にインタビューしていきます！

留学経験者特集

環境省には、留学・国際交渉・国際機関への出向など、海外に行くチャンスがあります！
今年度内定者の1人に、留学中の経験を**シジュウカラのカララ**が聞いてくれました！



まず、いつどこに留学していたかななどの基本情報を教えてください



イギリスのリーズ大学に約11か月。4月～8月は大学付属の語学センターで英語の授業を受け、9月以降は政治学部に入りInternational PoliticsやConstitutional Law等の授業をとりました。



A.K.



留学しようと思ったきっかけはなんでしたか？

前年に同じイギリスのオックスフォード大学ハートフォードカレッジに約1か月短期留学をした際、あまりに英語が話せなくて、イギリス人とコミュニケーションを取れなかったのが悔しかったから。中学の頃からずっと英語に苦手意識を持っていたので、荒療治でもいいので克服したくなったんだと思います(笑)

あと、実際に異文化を肌で感じることの楽しさに目覚めてしまったのと、イギリスの文学作品が大好きすぎて憧れていた、というミーハーな理由もあります。

印象的だったことはありますか？



挙げるときりがありませんが、日本を客観的に見ようとするきっかけになったのは、知り合ったばかりのスペイン人に「日本はとても素晴らしい国だと思うよ、捕鯨と死刑制度をのぞけばね。」と言われたことです。



環境省以外に、国際関係の仕事と迷いませんでしたか？

JETROとJFの説明会には行きました。確かに日本に軸足を置いた経済支援や、国際文化交流にはとても興味がありましたが、一生それだけに従事するよりもっと幅広いことに取り組みたかったので、公務員により魅力を感じました。

初めは外務省が第一希望でしたが、官庁訪問中にお話をうかがう中で、自分が外務省を志望した理由は**外交そのものがしたいからでなく、国際社会が抱える問題に日本の立場から取り組みたいからであると気づきました**。外務省が行うのはあくまで国と国との交渉事。国民目線で問題に取り組むのは、環境省のように具体的な分野を持つ省庁なのだ、と言われ、では環境省の方がいいじゃないか！と思ったのです。(具体的に環境省に決めた理由は個人ページ参照で…)



年齢高めの人特集

官庁訪問に来る人、そして内定を得る人は、現役で大学に入って留年なしの大学4年生ばかり…なんてことはありません！今年度内定者の2人はそれより年齢高め。**アリンコのアリー**によるインタビューです。



プロフィールを教えてください。

今年で24歳の、大学院1年生。官庁訪問は今年が初めてでした。



A.K.

今年で24歳の、大学院2年生。官庁訪問は今年で3回めでした。



H.I.



H.I.さんにお伺いします。
1,2回めの官庁訪問と、訪問した省庁は違いますか？

違います。

1年目 厚生労働省→内閣府→文部科学省

2年目 厚生労働省→国税庁→公安調査庁 でした。

基本的には1年目も2年目も厚生労働省を第1志望にまわっていました。2年目は院1年の時にまわっていたのですが、自分が成長できていなかったこと等を理由に厚生労働省を辞退しました。

3年目に環境省を第1志望に切り替えたのは、さまざまな理由がありますが、大学院の授業などで関心が環境問題に切り替わっていて、実際私が研究を行う環境金融を行ってみたいと思ったことが一番の理由でしょうか。また、中国に行った際の大気汚染の経験から、環境問題から国民の健康を守るという視点、福島出身の友人から被災した話等も理由です。あとは、政策教室という環境省単体の説明会に参加し、その時のテーマが感覚公害というものだったので、環境問題が身近に潜んでいるものだと実感できたのも1つの大きな理由かもしれません。

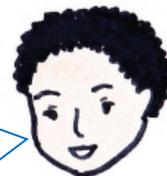


年齢でハンデを感じたことはありましたか？

外務省と環境省で1回ずつ、もし受かったら大学院は中退するのか、修士号をとらなくて良いのかと聞かれましたが、特にハンデは感じませんでした。



環境省だけでなく、他省でもハンデを感じた時はほとんどありませんでした。ただ、なんで何故省庁を変えたのかについては何度も聞かれたので、その質問に対する答えは用意しておくとも良いかもしれません。待合室でも官庁訪問3年目をネタにしていました。自分の過去に真摯に向き合い、強く生きることが大事でしょう。



おわりに

この度は環境省内定者の声に目を通していただき本当に有難うございました。少しでも皆さんの心の支えとなることができたでしょうか？
何だか偉そうなことばかり書いてあったかもしれませんが、これから就職活動に臨む皆さまのお力に少しでもなれば幸いです。

最後に、ページを執筆しているH.I.から1つ。有名な言葉ではありますが、私の尊敬している坂本龍馬の言葉に、

「世の人は我を何とも言わば言え 我が成す事は我のみぞ知る」

というものがあります。他人が自分を理解してくれなくても、自分が自分のやることをわかっていればそれでいい、といったような意味です。一見すると自己中心的な言葉のようにも聞こえますが、激動の幕末を生き、日本のために強く願って、当時の日本を変えた龍馬ならではの言葉です。

就職活動、公務員試験、官庁訪問。これから皆さんを多くの試練が待ちかまえていると思います。自分が試される時ほど、他者(特に面接官)からの評価がいつも増して気になるものです。それ故に悩みや迷いも多くなりがちです。実際私もそうでした。

しかし、坂本龍馬のこの言葉が多くの示唆を与えてくれます。他者の評価は気にせずとも(気にしなすぎはやめておいた方が賢明です)、本当に自分がやりたいことを考え、常にそれを目指して努力していれば、いつか自分が納得する結果は出るのではないかと考えます。

これはほんとに私見ですが、環境省には多くの坂本龍馬がいます。官庁訪問を通して、日本そして世界の未来を切り拓きたいという高い志を持ち、その志に向かって熱心に働かれている職員さんと、沢山お会いすることができました。内定者という立場は差し置いても、非常に魅力的な「人」が集まった省庁だと思います。

勿論、就職活動は人生の大きな分岐点ですので、環境省以外の省庁や企業もたくさん見てください。それから、いろいろな人に会い、場所に行き、本を読んで自分が生涯をかけてやってみたいことを本気で考え続けてください。その上で、環境省を選んでいただけたなら、内定者一同、これに勝る喜びはありません。

もし何かご質問等ございましたら、

H29年度環境省事務系内定者アドレス

env.2017.jimu@gmail.comまでご連絡ください。

なかなか連絡しづらいとは思いますが、本当にお気軽にご連絡いただいて結構です。

それでは、いつか皆さんと一緒に働ける日が来ますことを心待ちにしております。

H29年度環境省内定者一同

平成29年度
環境省 総合職事務系

内定者の声

平成29年度 環境省総合職事務系内定者一同
問い合わせ：env.2017.jimu@gmail.com

平成28年秋発行
